

思い出の写真シリーズ

第14回

東京オリンピックの聖火リレー

長野市陸協 総務部長
北原 勲

昭和39年は東京オリンピックの年でした。私が長野吉田高校の陸上部顧問でしたので、聖火リレーに牟礼まで行くことになりました。

山浦先生も県体育課の聖火リレー講習会での作法の伝達講習を行なうことになり、2日間グラウンドで3年生の原君以下選ばれた陸上部員と共に私も受取り練習方法を習いました。

長野高校からは、依田良春先生が引率されて来ました。長野工業高校からは顧問の先生が来られたと思われませんが、他の高校は引率者は来なかったと思います。

初めての道をバイクで行き不安でしたが、何とか目的地に着き、生徒はバスで来るのを待っていました。

バスは長野駅発上松、SBC、長野吉田高校前を通り

117号線経由して田子、牟礼駅と通ります。牟礼村の何所か覚えていませんが、狭い舗装もされていない曲りくねった道でした。

ようやく目的地に着きバスで来る生徒達を待っており、バスが遅れたらどうしようか、等々、一人道端で考え心配していましたが、予定通り一同無事揃いほっとしたことを今もよく覚えております。

集まった所で、受渡

しの練習を行い安堵したので、全員で記念の写真を写そうと私が提案し、写しました。その写真がどうしてもみつかりません。時間になり一連の聖火隊がやってき、原君が儀式にのっとり受取り無事走って行きました。後を追いかけて次の隊に渡したことを確認し、ほっとしたところの写真です。

東京オリンピックが始まり、各高校体育科の先生方も交代でオリンピック研修に行きました。私も数日間、数種目を研修した思い出があります。

「動き」ですが、前に私が総務副部長をしていた時、山浦先生から途中で止まっているので発行するように指示され、前の題字は「うごき」でしたが、発行に当り山浦先生に書いて頂いたのが現在の「動き」です。



編集後記

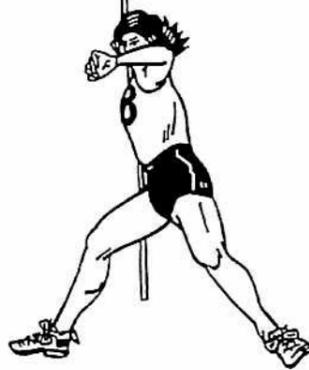
五月の鯉の吹き流し、1年で最高に良い月から、いよいよ梅雨時、しかし新緑の候でもある。さて第47回県春季陸上4月21日(土)~22日(日)、栄賞受賞された皆様おめでとうございませう。市町村駅伝、長野市8連覇、前半はヒヤヒヤ、後半ベテランの追込みで、さすがは秋の縦断に良い目標となりました。7区の競技役員を務めました。雨の中、トップでタスキを渡したのを見てホッとしました。レースを全然見てないので、国道19号一目散、我家へ、テレビでゴールを確認、北島監督の胸上げ、嬉しかったです。第94回長野市内高校4月29日、第38回長野市障害者スポーツ大会、平成19年

5月20日(日)天候は晴れ、しかし風が強く寒く感じた。鷺沢長野市長、出席のもと、パン食い競争他、笑顔の1日でした。障害者大会といえば先日、NHKテレビで、己武洋匡(おとたけひろただ)の番組を見て感激しました。今たまたま偶然に図書館から借りた本の題名「だから、僕は学校へ行く！」講談社の本を読み出した所です。不自由な身体で、すごいバイタリティ、教員免許をとり、頑張っている姿に感動致しました。

今回も又、会報の原稿等にご協力をいただき、心から感謝しております。

平成19年6月
広報部長 若松軍蔵

SHINANO MATE
LIMITED MARK CLUB MEMBER OF JAPAN



ATHLETIC UNIFORM

株式会社 しなのメイト

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE (0268) 81-1336
F A X (0268) 81-1337



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会会報紙として何号か発行されていました。

平成19年6月20日

発行所 長野市陸上競技協会
発行人 浦野義忠
編集人 若松軍蔵

3期目を迎えて

長野市陸上競技協会 理事長 浦野義忠

2期、4年間理事長としての任務を遂行できましたのも、ひとえに会員の皆様のご支援・ご協力のたまものであり、厚くお礼申し上げます。任期中の3年前に長野市体育協会では、第3次総合基本計画をベースとし、スポーツを軸にした町づくりを目指していると、鷺沢市長が宣言しました。競技力向上に資する施策に対し補助金を交付する趣旨の要綱が示されました。市陸協としましては基本構想補助事業の申請をし、強化選手に対し遠征・合宿費の補助をしてまいりました。その結果は、18年度は全国中学・高校総体・国体と多くの選手が出場権を獲得し活躍してくれました。また、晴れの全国舞台で、山本晴美・山田雄司・早川恭平・中田優菜選手が入賞をしました。好成績を残せたのも、小学校陸上教室の指導者の皆様の長い間の地道な努力の積み重ねが、その一翼を担っていると思います。

さて、役員改選によりまして、19~20年度の理事長を再度お引き受けすることになりました。皆様方の期

待に添えますよう努力してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今年度は4月当初の新規審判取得者の歓迎会をスタートに、第9回長野マラソン・第3回の子椅子マラソンも会員皆様がそれぞれの役割を果たし無事終了することができました。特に、市民マラソンでは長野マラソンが全国No.1の評価を雑誌ランナーズで紹介されました。第17回市町村対抗駅伝において、8連覇の偉業を達成してくれました。当日は風雨のコンディションのもと、中・高校生から一般選手全員が持てる力を発揮してくれました。そして、チームとしての総合力で優勝し、選手の熱き心にふれることができました。第3回小学生駅伝も準優勝と過去最高の成績を残してくれました。日頃からお協力いただいております鷺沢市長及び轟市会議長へ優勝報告をし、目指す長野県縦断駅伝連覇への弾みが付いたと思います。最後に、会員の皆様には、魅力ある市陸協を目指したいと思っておりますので、ご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

皆さん、はじめまして。丸田博(まるたひろし)です。出身は長野市なのですが、教師という職業の関係もあり、一昨年、長野市立七二会中学校に赴任し、こちらでお世話になることになりました。

七二会中学校では生徒数減少に伴い、一昨年より個人でも続けられる体育会系の部活動として陸上競技部が発足しました。そこで、私が顧問を仰せつかった、ということです。かつて生徒数が多かった頃は、七二会中学校にも陸上競技部があったとのことで、七二会中学校出身で、今も競技会等を支え、盛り上げてくださっている方々がいらっしゃいます。

ところで、私自身はこれまで、陸上競技と直接的な関わりがほとんどありません

新会員歓迎

審判免許を取得して

私は、陸上競技を10年間競技者としてやって来ました。しかし、審判免許はなかなか取得する機会がありませんでした。結婚をして長野に来ることになり、市で行なっている陸上教室と出会い、指導するには審判免許が必要ということなので、初めて取得する機会が来ました。学生の頃から取りたいと思っていたので嬉しく思っています。審判免許を取得するにあたっていくつかの大会に審判員として参加しました。い

丸田博



んでした。しかし、部活動として記録会や大会への参加を重ね、外部指導者として多くの方々のお世話になるにつけ「何か私にできることは？」と考えるようになりました。そんな時、相談ののってくださった外部指導者の方が、審判資格取得のお話をしてくださりました。そして今に至るわけです。

そんな私ですので、今季に入ってから何度か役員を仰せつかっていますが、あまり役に立たないばかりかご迷惑をおかけしているのが現状です。それでも、もしよろしければ、ご協力をさせていただきたいと願っております。

つも競技者側にしか立っていなかった私

は、初めて裏の運営している所をみて感動しました。たくさんの審判の方の協力と細かい連携によって大会は行なわれているんだと感じました。今後私もその一員として頑張っていきたいと思っております。また、新会員歓迎会をしていただいた時に名札を贈呈していただきました。より一層身の引き締まる思いで受け取り、改めて実感しました。これからは、陸上教室と審判の両方共に力を発揮していきたいです。 木村 敦子

第17回長野県市町村対抗駅伝

北島 正孝

去る5月6日開催された本大会、7連覇中であり、8連覇に挑戦できる喜びと裏腹に、ここまで築き上げてきた選手、又関係者の皆様に対して、万が一のプレッシャー…。私が監督になったとたん…。そんな気持ちを心のどこかに置きながら大会日を迎えました。結果は！ありがとうございました。8連覇達成！次に継げることができたこと、大変うれしく思います。

今大会は松本市制施工100周年記念大会として、松本城太鼓門をスタートの新コースで行なわれました。競技規定も大幅に変わり、1区・2区・3区連続中学生区間、全体の距離は短くなった中、中学生区間は逆に伸びた等、中学生区間の重要性が増した大会でもありました。オーダー編成には長野マラソンに出場した選手の疲労のとれぐあい、スピードトレーニングへの切り替え、色々考えるとところがありましたが、ともかくすばらしい（負けないという気持ち・裏付けのある可能性）選手の集りで

あります。中学生もきっちり自分の走りが出来たと思います。特に女子の2区間は優勝への勝負形を作り、続く一般選手は負けない走り、最後まで攻めの走りで勝利を手にすることが出来たと思います。

これも前島キャプテンの練習メニュー、田中駅伝部長のまとめ役、サポートして下さる仲間、中学生・高校生を指導している山田先生・竹内さん・玉城先生、また伊藤会長を中心に暖かい応援をして下さる長野市陸協の皆様のおかげだと思います。

1月に行なわれる県縦断駅伝、どうしても頂点にこの思いで皆で頑張りたいと思います。アドバイス等もよろしくお願い致します。



長野市チーム 青木 雅史

市町村対抗 駅伝大会

市町村対抗駅伝 8連覇

前走者の前島キャプテンが必死のラストスパートをかける。苦しそうな表情が見える。そして、後ろには駒ヶ根市が迫ってきており、両者の差は大きくなかった。

たすきを受け取ると、汗と雨とでじっとりとしていて、重く感じた。と同時に、前走者までの思いを感じ、自分の気持ちがぐっと引き締まった。駒ヶ根市との差が小さいため、最初の1キロの走りが大切だと思った。落ちついたペースで入ろうとは思っていたものの初めの1キロで差が縮まれば、相手に勢いづかれてしまう。1キロのタイムはちょうど3分、とりあえずは大幅に差が縮まることはないであろうと思い、冷静に走るよう努めた。

アンカーは5キロの短い区間ではあるが、途中の2回の登り坂などで苦しさが徐々に増してきた。しかし、中継所での前島キャプテンの必死の表情や、仲間の顔が頭に浮かび、負けられないんだ、という気持ちで体を必死に動かし続けた。そして、競技場に入るとチームの仲間が大きな声で応援をしてくれた。最後の力を振り絞って走り、8連覇のゴールテープを切ることができた。うれしさと優勝できた安堵感が胸がいっぱいになった。

今後も、秋の県縦断駅伝での優勝や来年の市町村対抗駅伝の連覇をめざし、チーム一丸となって練習に励んでいきたいと思っています。

競技場芝スタンドの柵ペンキ塗りボランティアで始める

長野インターハイ以来、長野市営陸上競技場の芝スタンドの柵も、何十年もの風雨にさらされてすっかりサビついてしまい赤茶けてきています。公共施設にお金を掛けることは、現在の状況からいえますと無理ですので、長野市陸協の有志によって6月13日からペ

ンキ塗りが始まりました。作業日は毎週水・木を予定しておりますので、時間が空いて都合のつく方は、積極的に参加をお願いしたいと思います。写真のように、こんなあか抜けした競技場が変わって行くと思うと、胸がわくわくします。(T・I)



新会員となって 酒井 麻由美

「競技をしていた時、審判の先生にやっていただいてうれしかった事、よかった事を考えて自分の審判の役割を進めましょう」新規講習会で、講師の先生から言われた一言です。

何の競技においても、あたかも当たり前のように審判は行われています。しかし、自分がいざ関係者となると毎回失敗ばかりで諸先生方に迷惑をかけてばかり。本当に自分の力のなさを感じる日々です。そんな時、私はふと「自分がやっていただいてうれしかった事…」が、頭に浮かびます。そして、次回はこうしてみよう、ああしてみよ

新会員歓迎

うという気持ちがわいてきます。また、先日競技会終了後にいただいた封筒には「一日ありがとうございます」と一言書いてありました。忙しい中、心を込めてくれた先生方がいると私自身強く感じると共に勇気をいただく事ができた一瞬でありました。

新会員になったばかりの私ですが、毎回新しい発見と新しい学びが生まれてきました。この発見と学びを生かして一歩づつではありますが、会員の皆様に少しでも近づけるようにやっていけたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



小学生市町村駅伝大会

第3回小学生市町村駅伝に参加して

竹内 万祐

過去2回の小学生市町村駅伝大会では長野市は、2年連続入賞していました。

今年も大会に向け、長野市も3月24日に選手選考会を開き、男女各10名の参加をいただき、大会に向けてのスタートをしました。

その中から男女3名を選びました。たまたま選手全員が私のクラブ（川中島ジュニアランニングクラブ）の子供達だったことから、練習は毎日でき、大会に向けて団結をつけ、優勝を目標に練習をつみました。

大会当日は、雨で、子供たちにはかわいそうな天候でしたが、子供達は一杯走って、第2位となりました。この子供達が2位となった嬉しさ、また、優勝できなかった悔しさ、両方を味わえたことは、この子供達が中学生、高校生になってから生かしてもらいたいと思います。

また、このメンバーで7月14日の白馬スノーハープクロスカントリー小学生駅伝で、全国大会出場を目指し頑張りたいと思います。

長野市陸協の皆様には、大変お世話になりました。今後も宜しくお願い致します。

市町村対抗小学生駅伝大会

山田 裕也

ほくは、三本柳小学校の6年生です。長野市代表で2区を走りました。ほくが通っている川中島JRCは、さい川の土手で月曜日以外毎日練習しています。ほくのクラブは、中学生の長さより陸上部といっしょに走っています。川中島JRCのかんとく竹内先生は、前日に、「自分の走りをすれば、絶対優勝できるからな」と言ってくれたので、少し気が楽になりました。

当日は、雨でした。ほくは冷えると腹痛になるので、しっかりアップをして体を温めました。1区がスタートしたら、同じチームの選手を応援しました。1区の1位と2位の選手が3位の選手との差をひきはなして、競技場にもどって来た時、同じチームの選手が見えなくてあせりましたが、2区の1位の選手が競技場を出る前にたすきを受けとることができました。竹内先生が、「最初からとばしていいぞ」と言っていたので、最初からとばして補助競技場の中で2位になりました。1位の選手を追っている時は、大会記録を出し優勝することしか考えてなかったで、中断点の手前で前の選手をぬいた時はとてもうれしかったです。結果は準優勝で、ほくは自己ベストの5分4秒を出すことができたので良かったと思います。7月に白馬である全国大会の予選会では、優勝した上田市のチームに勝って全国行きを決めたいです。

新シリーズ

その



市陸協を支えてくれる方々

しなのメイト会長
太田圭治様

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利博

しなのメイト株式会社が、創立30周年を一昨年迎えられたわけですから、私と会長との付き合いは、30余年になるかと思えます。

当時、学校の運動服の商売で学校方面を回られており、私の学校にも見えました。人並み以上の大きな体格で圧倒されるような感じでしたが、話をしてみると、穏やかで暖かいお人柄で、見た目とは大きな違いがあったと、その当時の第一印象を忘れることができません。

いろいろとお話を伺いしてみると、元西武ライオンズのプロ野球選手として、何年かやられたことをお聞きして、体格の大きさを納得しました。

会社経営の方も、年々実績を上げられて、今では大きな会社経営者として活躍されています。

そんな太田社長（当時）に毎年行われている、北信選手権大会の広告、更に長野陸協のプログラム、要覧の広告をお願いしたところ、二つ返事でお引き受けいただき、また最近では、会報「動き」の広告



北信越大会のテントの中で（左端）

も出していただき、長野陸協、長野市陸協共に大変お世話になっています。収入源の乏しい我が陸協に、毎年大きな資金を拠出していただいておりますが、会長は「皆さんたちのお陰で稼がせてもらっているのだから、そのくらいのことは当たり前だ」と有り難い言葉をいただいておりますが、なかなか出来ることではありません。こうした太田会長さんの大きな支えがあって、現在の我が陸協があるのだということを肝に命じていきたいと思えます。

見た目では頑丈そうに見える会長ですが、ここ数年体調を崩されていることも聞いております。早く健康な体に戻され、また一暴れしていただきたいと願っています。今後共、長野陸協、長野市陸協をよろしく願い申し上げます。